

# ニワトリの体のしくみ／サマースクール 2011

サマースクール2011の2日目に、奈良教育大学の菊池先生と、ニワトリの解剖をおこないました。

家庭科室に入ると、異様な臭いがプンプンしました。机には羽を取られ、首がダランとなったニワトリの死骸が置かれていました。生徒の中には、青ざめている人もいました。

ニワトリの体は人間に似ていて足を触ったら外は柔らかくて、握ると硬かったので、本当に人のすねみたいでした。解剖が進むにつれて、ビックリするようなことがいっぱいありました。口から空気を入れると肺や気泡がふくらんだり、歯が無かったり、腸が思っていたより長かったり…。

次の日には、昨日のニワトリが小麦色の唐揚げに変わっていました。それを食べると、少し歯ごたえがありましたが、とても美味しかったです。普段何気なく食べている唐揚げも誰かが解体し、食肉に加工してくれていることが分かり、命の大切さをもう一度かみしめました。



## ～生徒の感想～

- ・ ニワトリはくさかったけど頑張って解剖を進めていくと、いろんな仕組みが分かって良かったです。
- ・ 足の爪が長くて硬くてとても驚きました。
- ・ 脳とかいろんな臓器が見れて、すごく良い体験になりました。
- ・ 自分で解剖することは無理だったけど、最後らへんには色々触れたので、嬉しかったです。

(「ふるさと発信」情報局員：大西智也)